

学生フォーミュラ開幕

小笠山運動公園 自作マシン性能競う

学生が製作したフォーミュラカーの性能などを審査する「第17回学生フォーミュラ日本大会2019」(自動車技術会主催、静岡新聞社・静岡放送後援)が27日、袋井市と掛川市にまたがる小笠山総合運動公園で開幕した。31日まで、国内外から集まった98チームが技術力を競う。

市にまたがる小笠山総合運動公園で開幕した。31日まで、国内外から集まった98チームが技術力を競う。チームが出場。ガソリン車(ICV)と電気自動車(EV)の2部門で審査を進める。初日は、自動車メーカーの技術者らが審査員を務め、デザイン審査や車両の安全性などを判定する車検を行った。

静岡工科自動車大学校はデザイン審査で、今年一新した車両を披露。昨年から約30キロ軽量化したという車体に施したさまざまな工夫



デザイン審査に臨む静岡工科自動車大学校のチーム
=27日午後、掛川市の小笠山総合運動公園

点を審査員に説明し、けるのは試行錯誤の連続だった。20キロを走るの渡辺匠海さん(20)は「一から車両を作り上げ、耐久走行では完走を目指す」と話した。